

## 令和5年度 第9回頸城区地域協議会次第

日時：令和5年12月20日（水）  
午後6時30分～  
場所：頸城コミュニティプラザ  
2階 203会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協 議 事 項

- (1) 頸城区地域活性化の方向性の検証について
- (2) 地域協議会活動報告会について

4 そ の 他

5 閉 会

## 頸城区地域活性化の方向性の検証の進め方

### 1. 説明と意見の発表

- ・チェックシートの結果、傾向（事務局）
- ・意見交換のやり方説明（事務局）
- ・チェックシートの選択項目にチェックを入れた理由をそれぞれが発表



### 2. 2班に分かれて意見交換

- ・「大池、館」、「花、外国人」の担当に分かれて「チェックシートのまとめ」を基に意見交換
- ・出た意見の再考
- ・「進めたいこと」の抽出



### 3. 全体で意見交換

- ・各班で決定した「やりたいこと」を発表
- ・「やりたいこと」がそれでよいか全体で意見交換し、決定



### 4. 次回の説明

- ・次回以降の説明、作業のお願い（事務局）

**1 地域独自の予算事業の取組と将来像（テーマ）への進み状況 セルフチェック**

- 全ての事業がおおむね計画どおりに進み、テーマのスタートに（委員名：小川）
- 一部の事業において、課題があり見直しが必要（委員名：新保、望月、船木、橋本）
- 事業全体の見直しが必要または制度の再検討が必要（委員名：笠原、佐藤、滝本、山本）
- その他（ ）（委員名：なし）



【「住みたい、訪れたい」まち頸城区への取組の方向で】

① 大池・小池を活かした観光

【要4人、不要7人】

- ・頸城区のメインとなる事業。早い企画、多い予算で取り組むことが必要
- ・現在のスタッフではイベント開催に限界がある。組織の育成、人材バンクが必要
- ・小仲山線沿いの杉伐採による大池・小池が一望できる景観や映えスポットの作成、キャンプ場の増設
- ・ビジターセンター及びさくら会館で飲食可能な体制づくり
- ・大型予算と人が必要
- ・大池のファンからキャンプイベントなどでもっと盛り上げたいと聞くが、人が集まるとゴミやマナーの問題が出てくる
- ・現状維持で
- ・観光協会や地元団体のマンパワー低下も懸念されるので今後はファンの獲得と維持管理組織の人員確保が喫緊の課題
- ・観光協会との意見交換が必要
- ・住民のアンケート調査が必要
- ・計画自体は柱に沿ったもので良いと思う。天候に左右されない計画が必要

ChatGPT-4 の提案

課題は、予算の確保、人材不足、ゴミやマナー問題、観光地としての魅力向上など多岐にわたります。これらの解決の一步として、地元の学生や有志を活用したボランティア組織の創設を提案します。観光イベントのスタッフ補充や環境保全活動を行い、人材不足やゴミ問題の改善につなげると同時に、地元への愛着や地域貢献の機会を提供します。その運営は、ビジターセンターや民間施設と協力しながら観光協会が中心となっていくと良いでしょう。また、観光地としての魅力向上には独自性のあるイベント企画が有効であり、地元の特性を活かした天候に左右されないイベントも視野に入れるべきです。

※ ChatGPT-4 とは、入力した指示内容に対して自然な会話調で回答する最新版対話型 AI

② くびきのお宝（レールパーク、館）活用

【要2人、不要9人】

- ・現状を保持しながら、集客の向上が必要
- ・2つの館があるが、ボランティアの取組が違うのでは
- ・現在のスタッフではイベント開催に限界がある。組織の育成、人材バンクが必要
- ・白田邸・坂口記念館まで軽便の線路を伸ばす
- ・旧家・名所と連携できれば良い

- ・ベースがあるのでこれからどう広げていくかが課題
- ・事業継続のための組織の高齢化、会員、サポーターの確保などの将来像
- ・事務局継承者育成とイベントとしての質の向上と鉄道ファン、歴史ファンを巻き込んだ催し物の検討が必要、地元民をどう呼ぶかが一番の課題
- ・新しい人員の確保を目的とする共通の企画を実施
- ・アンケート調査で実態を知る必要がある。
- ・レールパークと館の共同開催は求めるものが違うので厳しい。公開日には特別感を出すことができればいい。

#### ChatGPT-4 の提案

これらの提案や意見から、新しい人材の確保と、施設間連携の改善が求められていると考えられます。これらを一歩進めるため、地域の学生や若者をターゲットにしたインターンシップやボランティア制度の導入を提案します。具体的には、軽便鉄道の運行やイベント企画、PR 活動などを通じて、地域の歴史や魅力を学び、体験する機会を提供します。同時に、異なる施設間での連携デーを設定し、それぞれの施設が共同でイベントを開催するなど、相互の視点で新たな価値を創造する取り組みも必要です。これにより、地域の魅力の体験者と発信者を増やし、長期的な継続性や質の向上を図りましょう。

### ③ 季節の花が咲く通学路、ポケットパーク

【要 4 人、不要 7 人】

- ・保育園、小学校、中学校の親子の参加を検討、町内会の参加のあり方を協議
- ・組織の横の繋がりが弱い。若い人は無関心。集落内で植えるところがない。
- ・新たな会員の掘り起こし、例えば介護施設の利用者等
- ・保育園児の配布のように、多くのところに配布できればいい
- ・地道な活動の継続が必要
- ・花は取り組みやすいので広がれそう。
- ・全区的な活動にするにはどうしたら良いか
- ・担い手、参画団体を育成・増強する必要がある
- ・ポケットパークにまで手を広げることなく、通学路の草花の手入れなど、学生をからめつつ続けていけば良い
- ・全体的に運動が知れ渡っていない。アンケート調査して住民が望んでいることを知る必要がある。
- ・区内にもっと花咲くスポットを設けてはどうか。

#### ChatGPT-4 の提案

これらの提案と意見から、住民参加や意識の課題が指摘されています。これに対応するため、花植え体験イベントを開催し、地域の人々を対象に担い手の育成を図ることを提案します。これを学校や町内会、介護施設などと連携して実施すれば、地域全体での結束力を高め、若者や新しい会員も含めた広範な層が運動に参加するきっかけを作ることができます。また、地域の特性に合わせた植栽スポットの提案や、具体的な季節の花の選定などを地元の意見に基づいて決定し、それぞれが生活空間により密接に関わることで、運動への関心も高まるでしょう。さらに、運動の PR にはローカルメディアや SNS を活用し、地域・年代問わずの認知度向上を図りましょう。

#### ④ 外国人の交流とファーマーズマーケット（買い物難民）

【要 7 人、不要 4 人】

- ・ 頸城区の取組だけでなく市全体の取組を参考に
- ・ 上田市の状況を見ると早く取り組む必要がある。
- ・ 外国人の意識、ニーズを調査し市が組織をつくる。区では現在の活動を継続し求められるニーズを市に提言する。
- ・ イベントが主体になっている。まず課題は外国人が住みやすい環境（困ったときの相談窓口）逆に地域の住民が困っている（防災関係、重要な連絡等）ことはないか
- ・ 地元住民、外国人、企業と意向が合っていない。当事者から話を聞きアドバイスをもらってはどうか。
- ・ イベントの前に受け入れる側（日本人）の教育を考える必要がある。
- ・ 外国人が見るサイトや SNS への掲載や多言語チラシの作成と外国人出店（フリマ）も可能にしたらどうかと考える。
- ・ ファーマーズマーケットや買い物難民は別で考え、先ずは外国人のニーズを聞き取る事から始めてはどうか。
- ・ 地域と外国人と意見交換をして、地域を巻き込むアンケート調査が必要
- ・ 外国人のマーケティングを行い、それに見合う計画が今後必要

#### ChatGPT-4 の提案

これらの意見から、外国人のニーズ調査と双方向のコミュニケーションの重視が必要だと言えます。まず、意見交換会やフォーカスグループを開催して、外国人労働者のニーズや困っていることを把握します。その反響をもとに、日本人と外国人が互いに理解しあうための研修会やワークショップを企画します。これは、外国人への理解を深める日本人側の教育と、日本での生活や文化を理解する外国人側へのサポート双方向に必要です。また、相談窓口の設置や多言語での情報提供など、生活支援の充実も求められます。

さらに、それぞれのニーズに応じたイベントを計画します。外国人出店のフリーマーケットや、地元産品を使った料理教室、共同クッキングなどを通じて、地域の人々との交流を促進します。その活動は多言語で広報し、SNS などを通じて情報開示を行います。より多くの人々が参加しやすい、包括的な地域づくりを目指していくことが重要です。

#### ⑤ 情報発信と子供の居場所

【要 2 人、不要 9 人】

- ・ 情報発信の中身の精査が必要
- ・ Line や SNS だけでなく紙による周知が必要。年間行事予定表を出したらどうか。
- ・ 発信内容の精査と不測事態への対応も必要
- ・ 新たな取り組みの情報発信は開始されたばかり
- ・ 子どもの居場所は親と子が何をどの程度望んでいるのか
- ・ 小中学生がタブレットで情報発信することが面白いと思う。区公認インフルエンサーの育成
- ・ 全ての年代区民を対象に SNS の学習会を実施し、全区民総インフルエンサーを目指す。ついでに高齢者のデジタル慣れを促す。
- ・ 区全体の住民の意見を知るアンケート調査が必要
- ・ 試みとしてはまずまずだが、一人一人の情報発信の意識が薄い。

## ChatGPT-4 の提案

これらの意見や提案を整理すると、「情報の質と発信手法の多様化」、「年齢層に対する配慮」、「地域全体の関与と連帯感」が重要だと言えます。

まずは、発信情報の質を高めるために、実際に地域で起こっている出来事、活動、取り組み等を記者クラブのような形式で取材し、地域の声を反映させた情報発信を考えます。

また、年齢層に対する配慮として、子供たちが地域情報を発信するプロジェクトや高齢者向けのデジタル慣れ講座を開催します。こういった取り組みを行うことで、全年齢層が地域情報に関わることで地域の絆を深めるとともに、デジタル分野でのスキルアップを図ります。

さらに、地域全体の関与と連帯感を生むために、区の Web サイトやアプリ上で簡単に意見を共有できるプラットフォームを作り、自分たちが発信する情報が区の政策に反映される感覚を持てるようにします。これにより、一人一人の情報発信の意識を高めることができるでしょう。

## 2 その他 意見等

- ・集客の方法、ボランティアの確保にどの区も悩んでいる。根本的な意見交換が必要（横山）
- ・買い物難民はいない。早い内に若い人を入れるのが大事（山本）
- ・少ない予算での地域事業には限界がある。限られたリソースも含め 2～3 本柱に絞り、予算もリソースも投入すべき（新保）
- ・柱の変更はない。方向性や参画する人を増やす必要がある。（橋本）
- ・上田市を視察して日本人が外国人に対してどう対応したらいいか当事者と考える。また、区内の先行している町内会に学ぶ。（望月）
- ・もっと地域の方からの声を聞き、よりよい形にしていくことができるのではないかと感じる。（佐藤）
- ・一つの柱に複数絡めているのでやれないものをテーマから削除する必要がある。（船木）

## 頸城区地域協議会活動報告会開催要領(案)

## 【開催趣旨】

これまで頸城区域協議会では頸城区の地域活性化に向けた検討を行い、地域独自の予算を活用してまちづくりを進めてきた。多くの住民から地域協議会のことを知っていただくため、これまでの活動内容等を報告するとともに、このまちづくりを説明し、頸城区の将来を担う中学生の意見発表を行う活動報告会を開催する。あわせて委員の改選があることから地域協議会委員の公募について説明する。

## 1. 主催者

頸城区地域協議会、頸城区総合事務所

## 2. 開催日

令和6年3月2日（土）14：00～15：40（予定）

## 3. 会場

ユートピアくびき 希望館 多目的ホール

## 4. 内容

- |  |     |
|--|-----|
| (1) 開会…地域協議会長、総合事務所長あいさつ                           | 5分  |
| (2) 頸城区地域協議会の4年間の活動報告<br>…協議会の開催、審議内容、意見交換会などの実施状況 | 10分 |
| (3) くびきのまちづくりの方向性の説明                               | 10分 |
| 休憩   | 10分 |
| (4) 頸城中学校生徒の意見を発表<br>…事前に依頼したアンケート集計結果に基づき発表       | 50分 |
| (5) 地域協議会委員公募内容と手続きについて                            | 10分 |
| (6) 閉会…地域協議会副会長あいさつ                                | 2分  |

計：100分（1時間40分）

14時～15時40分

## 5. 参加周知方法

- ・各町内会ほか各団体へ開催案内を配布（2月）
- ・地域協議会だよりに掲載（2月・全戸配布）
- ・防災無線により随時放送
- ・広報上越2月号に掲載（地域政策課担当）